



学校だより

令和8年9月25日
横浜市立上白根小学校
【10月号】



<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamishirane/>



お出かけから

校長 小嶋 一喜

9月には、2年生と6年生がお出かけをしました、

2年生は、こども宇宙科学館に行きました。大きなプラネタリウムをリクライニングする椅子から上を観ると、満点の星空を360°リアルな感じで味わうことができます。普段の横浜は街の明かりが明るいので、多くの星を観察することが難しいですが、ここでは街の明かりを消した状態にして無数の星を観察することができました。子どもたちは「わー。」と歓声をあげていました。お弁当の後、食べ終わった班から活動を始めてよい約束になっていました。グループのみんなが、早くいこうと決めれば出発できますが、まだおやつを食べていたいメンバーがいると出発できませんでした。様子をみていると、早く活動をしたい子が、はやる気持ちを抑えてメンバーを待ってから活動をする様子が見られました。待ってもらった子から「待ってくれてありがとう。」という言葉ができることが理想ですが、私がみている中では聞こえてきませんでした。子どもたち同士は、言葉がなくても通じ合っているのかもしれない。

修学旅行前日、1年生がなかよし班で一緒に6年生に手紙を渡すために、6年生の教室に行く場面がありました。代表の1年生が「いってらっしゃい。」と大きな声で言うと、みんなで声を合わせてさらに大きな声で「いってらっしゃい。」と言い、それぞれ手紙を渡しにいきました。手紙をもらった6年生は嬉しそうで、1年生の目を見ながら「ありがとう。」とお礼を言いました。日頃から同じ2階で過ごしている1・6年生が様々なかかわりをもって、それぞれにやさしい気持ちが育ってきていることが、とても微笑ましいです。

日光では、江戸村と東照宮でグループ活動がありました。くじ引きで決まった4人が、それぞれの興味関心が違う中、1人のために3人が待っていたり、もう少し長くその場所にいたいのを我慢したり、上手に折り合いをつけながら時間いっぱいまで活動をしていました。体調を崩す子どももなく、子どもたちが決めたスローガンのように、最高の思い出となったのではないかと感じました。

お出かけをすると、普段とは違う場面で、自己選択をする機会が多くなります。そのときに自分の気持ちだけでなく、友達の気持ちを鑑みて判断をすることが必要となります。自己決定した行動を、我々が子どもたちにしっかりと価値づけていきたいと思います。